

■開催概要

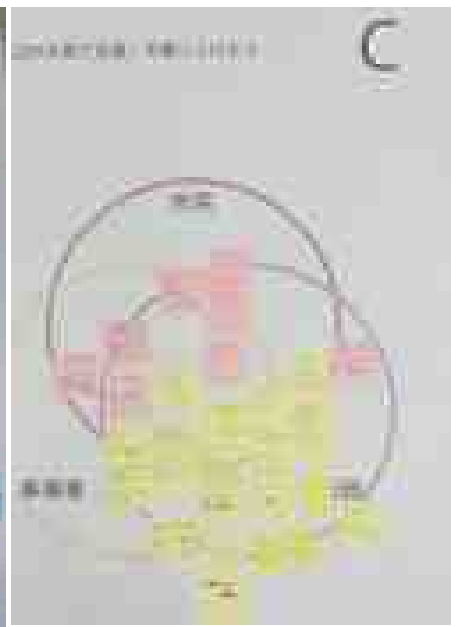
(1) 子育て支援 【重点Ⅰ、Ⅱ】 (7月8日(土) 9:00~12:00)

参加 依頼	市内育児サークルの参加者 等 12名 輝くこども未来室、健康福祉政策推進室、子育て支援課、教育部担当職員等 6名程度
概要	<p>テーマ：「京田辺の子育て支援」を盛り上げよう</p> <p>(1)京田辺の子育て環境について現状を踏まえて、その充実に向けて具体的な施策展開についてのアイデアを収集する。</p> <p>(2)児童福祉週間等でのイベントをさらに充実させるため、子育て世代などの市民からのアイデアを収集する。</p>

(2) 文化・芸術 【重点Ⅲ】 (7月8日(土) 13:00~16:00)

参加 依頼	美術公募展の市内参加者、各種教室主催者・参加者 5名 文化・スポーツ振興課、都市みらい室職員 他 6名
概要	<p>テーマ：みんなで育てる文化芸術のまち</p> <p>市民の文化芸術活動を活かしてまちの品格を高めたり、<u>絆づくりにつながるアイデア</u>を収集するとともに、市民主体の活動を展開するために必要な環境整備(複合型公共施設へ求める機能)や支援策等についての意見を収集する。</p>

■ワークショップの様子と成果



テーマ1：子育て環境の充実（こんなのあったら喜ばれそう！）

役割：市（市民）、事（事業者）、行（行政）

班	充実策概要	詳細意見	役割
A	子どもを遊ばせる公園	子どもを遊ばせる公園／管理の良い公園がほしい／家の近くの公園は、草刈りがされていない／安心して遊ばせられる公園／外での遊びもできる、半分外の屋根付き、日影がある公園	行
	施設の活用	社会福祉センター：未就学児も利用できることが知られていない／社会福祉センター：世代間交流ももっとあると良い／公民館：役所に近く割と使いやすい。もう少しよければ	行
	情報発信デジタル化	地区民生委員さんの行事情報がもっと発信され、地区の知り合いづくりができると良い←デジタル化／市情報のデジタル化。HP 情報少ない。LINE は助かる／施設情報をもっと詳しく発信／HP にアーカイブ資料集があると良い（事業実施報告載せたら）	市行
	気軽な相談窓口	窓口がほしい未就学→子育て支援 就学→教育委員会／妊娠を届けた際に、産む場所・産み方の選択肢を提示してほしい／家庭児童相談室：ハードルが高い／“まちの保健室”いつでも気軽に立ち寄り（雑談しながら）相談できる／専門家につなぐ役になったらよい	行
	アウトリーチ型支援	外に出てこれない人の支援が難しい。こもってしまう。／アウトリーチ型の支援／障害児支援は充実しているが（その前の）グレーゾーン／グレーゾーンの子どもの支援	市行
	ファミリーサポート	サポーター有償ボランティア：1時間 800円（内 20円事務費）事業的に無理がある／ファミサポ委託：対価に見合うよう料金を上げる？／知り合いがいない人、何かの時に支えになる／サポーターは増えない／メンター的なものがあるといい。登録・面接／サポーター高齢化、体力的に無理。40代50代は働きに出る。	市事
	家事支援	産後ドゥーラ（民間資格）／利用するのに心理的な壁がある／気軽にベビーシッター受けられるサービス／子育て家庭へ家事支援／家事支援は産前産後に限らず、他にも支援がある／産後ドゥーラ利用に対する行政補助／日帰り産後ケア施設：久御山町は行っている	市事行
	保育サービス	一時預かりできる場所がほしい／病児保育をする病院を増やしてほしい／公立保育園の土曜日 19時まで／希望の保育園・学童に入れるようになったらいい	市事
B	多世代が集える居場所の確保	ママ、子どもだけでも（見守り有）、パパも多世代が集えるライトな居場所 ≒年齢、使用方法など制限が少ない（←市民と行政の話し合い）公共施設（既存施設 児童館？中央公民館でもよい 市がやるより、民間が柔軟に対応できる／近所の人とつながれる場／ベビーカーで歩いて行ける集まり／子育てパパさんの居場所／子どもだけでいられる場所があると安心／小学生になるとお母さんにとってつながりがなくなる／小学校低学年の子の放課後の居場所があるといい／未就園児～小学生と一緒に過ごせる場所（室内）／誰が来たかわかる（記名など）自由度の分、一定の自己責任／学校とは別の場所で気軽に相談できる場所／幼児と小学生以降の切れ目ないママへの支援／ミライロのようなセンターを各小学校区に欲しい／地域の公民館の活用ができれば	市事行
	勉強スペースの確保	小中学生、高校生の自習室／子どもの宿題スペース	市行
	遊び場の確保	雨でも遊べる、予約なくいける、お弁当の持ち込みができる児童館がない／託児さんがいるオープンスペースがほしい／年齢制限のない遊び場がほしい／子育て支援センターを保育園から独立させ、いつでも自由に遊びに行ける場所に！！屋内遊具や絵本が充実しているスペース	市行
	柔軟な預かり	一時保育の予約の簡素化／幼稚園で小学校低学年も預けられるようにしてほしい。（こもればのよう）／半日など時間を選んで利用できる一時保育がほしい	市行
	親のステップアップの支援	児童館とハローワークの間、ママがスキルアップやブラッシュアップできる場所／学童保育の説明が聞ける場所が欲しい	市行
	幼稚園入園前の支援	幼稚園の二歳児学級／そよかぜナースリーのような施設を増やしてほしい	市事
	行政サービスの利便性向上	0.1.2 乳幼児のイベント教室を増やしてほしい	市事
	行政サービスの利便性向上	親子教室の定員数を増やしてほしい／はぐはぐ親子今教室を兄弟参加可能にしてほしい／保育園の兄弟枠をもう少し整備してほしい／なかよし学級を大住こども園のように無償化してほしい	行
C	皆が安心して集まることのできる屋内空間（寺子屋）が必要	幼児・未就学児童の居場所はあるが、小学校以上の屋内での居場所がない。学校から帰ってきてからの居場所が必要。／児童館は小学生には狭いことが多い。小学校の空き教室を使わせてもらえれば。／地域・自治会が連携して寺子屋のようなものがないか。／企業が会員を集めて体育館を使っている事例はあるが一般公開はされていない。／幼児だけでなく小学生も含めた兄弟みんなが集まって過ごせる場所がほしい。／ボランティアや民間学習塾も協力して無料塾のようなものが開けると集まりやすいのでは。	市事行
	放課後の居場所、もっと自由な広い空間の確保	屋外でももっと日陰がある空間が必要。／空いている駐車場を活用して自由に遊べる空間を。水遊びできる空間ももっとあってよい	市事行
	一時預かりなど柔軟に利用できる育児支援サービスの確保	病児保育の予約がとれない。病院やクリニックなどに連絡しても預かってはもらえない。／ベビーシッターや家事代行などのサービスはあるが、2時間制で別の用事を済ませるには時間が足りないなど今ひとつ母親のニーズに合っていない。／ベビーシッターや家事代行などのサービスをもっと気軽に使えるシステムが欲しい。	市事
	ファミリー・サポート・センターの改善	ファミサポはよいシステムだとは思いますが、マッチングの条件が厳しく手続きが面倒で使いにくい。／一般の人にどこまで任せられるのかという不安もあり、やはりプロの人に任せたいという気持もある。専門性を持った人が参画してもらえれば。／提供するサービスに対して対価が少なすぎるのでは。ボランティア精神に依存しすぎると人は集まらない。	市事
	公共施設の柔軟な利用	公民館などを利用する場合に、小学生はダメ、高齢者でないとダメ、飲食はダメなど利用に関する制限が多すぎる。夏休み中に弁当持参 OK などしてもらえると親は助かる。／支援センターを病児保育に活用しても良いのでは無いか。／支援センターから学童へのお弁当の宅配ができないか。 →複合施設としてできているが、公共施設の場合そもそも利用目的が一定の範囲に決められているという事情がある。 →公共施設では利用者からのクレームによって利用を制限する決まりがどんどん増えていくということがよく起きる。公園などでは利用者間で独自のルールを決めることでより柔軟に利用していく取組が進められているので、公民館でも同じような取組があってもよい。	行
	時間帯の拡大、期間限定利用への対応	土曜日に開いている支援センターを増やす。／学童保育は夏休みだけの利用という事ができないため、夏休みの利用のために1年間の利用を申し込む必要がある。夏休みなどの期間限定の学童保育も考えて欲しい。大学と提携した夏休みだけの学童保育などできないか。 →場所や必要な人員の確保と年間を通じた効率的な運営を考えると限界があるのが実情である。	行
	「母親のため」の支援	出産時に10万円支給などの制度があるが、こうしたものはやはり子どものために使わないといけないう意識が強い。しかし、産後の母親自身に対してもその時やっておいた方が良かったと思う事も多い（産後の骨盤調整など）ので、母親自身のためにしか使えない支援策（独自チケットなど）と、産後にやっていただいた方がよい手入れなどの情報の普及啓発を合わせて行くと良い。／産前産後の母親をサポートする「産後ドゥーラ」によるサポートを進めて欲しい。	行
	利用手続きの簡易化、DX化	各種施設の利用の際に、紙を使った手続きが多く、また現地に行かないとダメなこともある。手続きをもっと簡素化すると同時に、スマホ対応など手続きの電子化を進めて欲しい。→DXについては国も力を入れて進めているので京田辺市でも今後進んでいくはずである。	行
支援センターの周知・ママ友づくりの場としての活用	支援センターの存在を知らない人もまだまだ多いため、パパママセミナーの開催を増やすなど、もっと支援センターに行く機会を増やして支援センターを知ってもらうことが必要。／コロナ後昔のようにママ友づくりをすることが難しくなっているところもあり、支援センターがママ友づくりの場にもなるような機会を増やす。	行	

テーマ2：児童福祉週間事業の充実

班	充実策概要	詳細意見	役割
A	子ども主体のイベント	商工会と連携／子ども主体のイベントたなフェス「こども商店街」／こどもマルシェ／子どもが実行、大人が助けるイベント／学びにつながるキッズニアみたいに／市民の皆さんと行政と一緒に作るイベント	市事行
	多世代のイベント（誰でも参加）	シャボン玉パフォーマー／児童を中心にした多世代参加のイベント／親子中心でも誰でも参加できる／未就園児～小学生まで参加、各年齢ごとに楽しめる内容／自治区別対抗の運動会・相撲大会（全世代型）／日曜日の開催を家族みんなで参加したい／お父さんも参加できる日程と内容／（内にも）外に小さなこいのぼりをたくさん付けられる所づくり写真スポットに（雨でもOKだとい）／こいのぼり他施設にも置いて、ウロコを家で書いて貼りに行けるようにする	市事行
	情報発信	イベントが1か所に分かるホームページ。イベントカレンダーに参加対象を、未就学児や小学生と（アイコンで）記載を。	行
B	連携体制の構築	大学の部活動やサークルと協力してほしい 政策グランプリでエントリーしてくれたグループの案をイベントで実現したらどうか。 ⇒政策グランプリのような、イベント案募集を行い、行政がイベントウィーク中に空いている施設や時間を、参加者に向けて告知し、行政からオファーする形でイベントをおこなってもらう。イベント案募集要項に、思いっきり遊べるもの、ゲーム要素のあるものなど条件を加えて募集する。	市行
	参加条件設定、実施日の考慮	年齢制限がないイベントをやってほしい／兄弟がいることを考えたイベントをしてほしい 水曜日のイベントは行くのが難しい。土曜日とかにしてほしい プールを一日だけではなく、もっと日にちを増やしてほしい	市
	やってみたい内容	思いっきり身体を動かせるようなイベントを増やしてほしい／ゲーム要素を入れた謎解きイベントなどをやってほしい プチコンサートなど、音楽を生で感じられるようなイベントがほしい／水遊びのできるイベント／縁日のような出店	市 事
		公園で子ども祭りのようなことをしてほしい ⇒秋の市民まつりを子供向けにして、ウィーク時に移動してくる。 絵本作家の方をよぶイベントや絵の描き方を教えてくれるイベントなど、未就学園児と楽しめるようなイベントが欲しい。／花火ができるようなイベント（場所や時間の指定等）	行
C	児童福祉週間事業全般について	ある日だけというのではなく期間中継続してイベントが開かれていることが必要。特定の日だけでは参加できない母親も多くいる。／ママ同士がつながりを持てるようなイベントが必要。多くのママが行きたくなるようなメインイベントと、特定の趣味を持ったママが集まる小イベントが幅広くセットであるとよい。／このイベントがきっかけとなって児童福祉週間だけではなく定期的に参加できるものにつながるイベントがよい。	
	自然を利用したイベント	京田辺の自然・山を活用し、虫に触ったり収穫体験をするなど自然との触れ合いの機会となるイベントを実施する。	市事行
	子どもの才能発掘イベント	絵画や写真、音楽、ダンスなど一流の講師に来てもらい、コンテストや展示会を実施し本物に触れることで子どもの隠れた才能の発掘を目指すイベントを実施する。	市事行
	親子ふれ愛コンサート以外のコンサート・ふれあいイベント	現在の親子ふれ愛コンサートに加えて、楽器を触るイベントや・リトミック・コンサートなどの行う中で、もっと母親同士のふれあい・交流会を取り入れたメインコンサートイベントを開催する。	市事行
	有名企業とのタイアップイベント	みんなでジャンボリミッキー、ポケモン着ぐるみ行進など、有名企業と提携してより多くの人が集まりやすいイベントを開催する。	市事行
	歩行者天国イベント	メインストリートを歩行者天国とし、パレードを行うとともに、沿道にはフリーマーケット・バザーや作品展示などが並んだ歩行者天国イベントを開催する。	市事行
	子どもの健康増進イベント	地元のスポーツクラブ・団体と協力して子どもたちがスポーツを体験するイベントを実施する。	市事
	性教育イベント	カルタなどを使った遊びながら学ぶ性教育を実施する。子どもだけでなく大人にも好評。	行

市長との対話：

■多世代が繋がれる場所が欲しい。⇒仕掛けのしかたを考えていく

ミライロを経験された方が、もっと他のところでも展開できるのではと考えておられる。行政としては、今まで施設を建て利用率を評価基準としていたが、ミライロをつくったら、集まってきて何か化学反応が起こり、地域の人動きだす人が増えてきて、会議室利用ではなく、一階で放課後にみんなで宿題を教えあったり、寝転がるところにママさんもいて、ミライロでつながれることがわかった。今までは、高齢者は高齢者、子どもは子ども向けの施設、と分けをしていたが、頭の発想を変えるきっかけになっている。市民にも主体的に関わって、私たちもこれができるから、行政も何ができるかという話になってくると思う。みなさんと作り上げていくイベントにしていかなくてはならない。

■手続きの簡素化 ⇒DXを進める（子育ては一番親和性が高いので徹底的に進めようとしている）

少しずつ進めていきたいと思っているので、ご意見いただきたい。

■学童・夏休み期間の子どもの過ごす場所 ⇒自然豊かなのでできことあるのではないかな

私の子供も相当苦労した。海外のサマーキャンプは日本はなぜないのかと思う。自然豊かな街なので、できることがあるのではないかなと思った。

■切れ目のない子育て：相談場所としての妊娠期の保健師の訪問機会の活用

妊娠されて届出をされたときから、保健師が関わって、8か月目には保健師が訪問する中で伝える良い機会、担当者と整備していきたい。

■2人目から3人目のハードルを超える ⇒3人目に対しての施策が有効かもしれない

3人目の支援を徹底的にやる方が効果は高いのではないかな。頭をひねりながら頑張っていきたいと思う。



テーマ：みんなで育てる文化芸術のまちをつくる！

	イメージ	具体的な市民主体の取組み		
①文化・芸術 でまちの魅力を 高める	文化で特徴 吹奏楽を活かす 吹奏楽のまち京田辺 京田辺と言えば、 目玉となるもの	現状の取組み ■地域に根差した市民バンドがある 自主公演を地元ホールや地域のいろいろな場所で実施 高校・大学吹奏楽バンドが集まるイベント開催 ⇒中高生のレベルが上がる 市民管弦楽団は身近にそこでも演奏している ■書道体験 京田辺市展で作品発表の機会を得た (書道で京田辺の歴史文化を表現した) 自分で知ろうと思わないと、 若い人は歴史文化を知る機会がない 京都橘大学の学生として山科区で活動 身近に作品を見せる(展示) イオンで親子イベント	楽器をやる人を増やしたい ⇒楽器体験会(枠組みがあれば運営しやすい) 近隣中学校吹奏楽クラブと合同練習 (スケジュール、練習時間制限など調整が難しい) ⇒学校のクラブ活動の指導者としていく仕組み 指導者が大事: ハンドボール(小学生)バレエ団、京田辺に指導者がいる 指導者の循環ができていく (競技していた子が指導者になって戻ってくる) 若い子のダンスなども支援しては	・身近なイベント、場所、きっかけになるもの(有名な人に限らず) ・習い事始めるハードル ⇒その前のワンステップ、身近に触れる機会 きっかけ、場として「文化フェス」 アイデアを持っている人はいる 例えば、花火大会、田辺音頭 ⇒新しくやる時相談先があるといい ⇒何かやりたい、新しいことが気軽に始められる ⇒仲間集めなどうまくできる仕組み、支援
	⇒郷土に愛着を持ってもらう 子どもが学ぶと、 親も学ぶ機会になる 子ども、小中学生が京田辺 の歴史を学ぶような活動を していく 文化芸術活動がまちづくり とどうコミットするか まちの課題: 絆づくり、人とのつながり づくり、福祉との連携など、 意識して活動	■大住隼人舞を大住小学校で出前授業 山城地域の伝統文化、自分のまちに親しむ機会になる 小学校(児童・先生に)に歴史の出前授業 小学校副読本「私たちの京田辺」 ⇒後継者不足、次世代の育成が必要 無形文化財の継続、大住隼人舞 集落の人と、新住宅地住民と一緒に活動 活動の公開、旧村に限らず大住地区で広げる 旧村に限らず、中学生、若い人に入ってもらおう 大住地区の地域のつながり 一日講は舞手がおらず中断。なくなってしまう。	地元に戻って活動したい。 (大学ではなく一人でどう始めたらいいの?) ⇒絵画、書道など体験の場、枠組みがあるといい (新しいことが気軽に始められる) ⇒仲間集めなどうまくできる仕組み、支援 知ってもらうのに SNS 活用	学生の活動、年齢が近いので子どもが興味を持つ仲間
②絆づくりに つながる文化 芸術活動とは			鹿児島から出演依頼、交流したいが予算、人員(子ども)制約 外に活動を広げるサポート体制があれば	歴史、昔からの積み重ねを知ってもらう ・・・今を知るのに大切 今あるもの、昔からあるものを知ってもらうこと ⇒子どもころから文化歴史が自然に身につくように

③必要な環境(役割分担・複合型公共施設に求める機能)

(複合型公共施設で) 「文化の元気なまち京田辺」 スペース、枠組みをつくる 連絡協議会が窓口になってやりたい活動ができる 相談もでき、活動もできる場	■コーディネート・相談機能の充実 施設は貸館、貸館としては利用しやすいもの ①場所は借りられるが、事務局機能は置けない。 ⇒一時的でも事務局機能が置けるといい。 ②貸館、活動をフォローする機能がない。 ⇒気軽に行ける、相談できる場所 運営について、相談体制があると、活動の幅が広がる	■緩やかな連携 文化団体連絡協議会、個人活動も含めて、 交流できる場をつくる 文化関係組織、緩やかな連携、文化団体・個人の 緩やかなユニット ⇒協議会で、事業実施、施設運営もできれば	■教室運営 (南部まちづくりセンター、民間で教室を運営している) 場所使用料、指導料、どちらも有料で ボランティアも有償で、原材料費が回収できればいい 指導料でなく、教材費をいただくのがやりやすい (全てお膳立てしなくても) コーディネート機能があればいい
--	---	--	--

副市長との対話:

■やりたい、やる人が増えてほしいという市民の思いを、どう支援しコーディネートを進めていくお考えか。

副市長: 困ったときに相談できる団体などの仕組みがないといけなと思う。いろんな団体に話を聞いていく中で、どういった仕組みがいいか議論していきたい。

■芸術・文化を通じてまちの課題にどうアクションするかという話題が出て、書道を通じて地域に目を向けたエピソードはあったが、具体的に何か発信していけるか。

副市長: 産業や、観光、福祉との連携などで、他のものと一緒にすることで、非常に効果が出る。そういう側面も文化は持っているのだから、深めていかなくてはと考える。

参加者: 大住シンフォニックバンドと知り合って私は移住した。市の課題がわかると、アプローチできるかもしれない。地域に根差した行動と地域貢献は団体の目的にあっている。

担当課: コーディネート機能があれば、活動によるいい効果を伝えていく事で、団体さんのやる気や意義につながっていくと思う。

市職員: 課題解決がモチベーションよりも、京田辺市に愛着を持っていただいて文化芸術を広める方がいいと思う。そこは行政の役割やコーディネートをしていく部分だと思う。

参加者: 結果的に課題解決につながるかもという意識は持っているが、市の歴史や文化を背負っているわけではない。いろんな文化団体と交流することがいいと思う。

副市長: 複合型公共施設はいろんな団体がコラボして、運営の仕方をどうするかが大切。いろんな団体が連携していければよいと思う。

